



見守り活動NEWS!

<第7号事例紹介>

2026.6 発行

千葉市社会福祉協議会

見守り活動実施中の地区部会に、令和7年度中に「見守り活動に係わる事例をご提供ください」とお願いし、活動事例をお寄せいただきました。お忙しい中ご協力いただきありがとうございました。

「感謝されたこと」「役に立ったこと」「残念だったこと」など、様々な事例をご紹介いただきました。皆様のご参考になればと思います、事例の一部を掲載させていただきます。

なお、個人情報保護の観点から、一部内容について加工させていただいています。ご理解くださいますようお願い申し上げます。

事例1	見守り対象者	Aさん（女性・80歳代）
	異常サイン	ご近所から、最近見かけないので心配だとの声があった。
	対応状況	対象者へ電話連絡するも不通であったことから、自宅へ訪問した。
	対応結果	偶然対象者の子と会うことができたため、状況確認した。 迷惑電話がかかってくることから、本人は在宅中でも電話を取らないようにしていることを聴取。その後、本人の安否を確認。引き続き見守りを続けている。

事例2	見守り対象者	Bさん（女性・70歳代）
	異常サイン	持病を持つ一人暮らし高齢者が怪我をしていた。
	対応状況	見守り活動従事者が、救急搬送された対象者と偶然居合わせ、体調不良を察知した。
	対応結果	後日担当の民生委員さんが対象者宅を訪問した際に、足のむくみが見られ、対象者が辛そうにしていたため救急車を呼び、医療機関へつないだ。

事例3	見守り対象者	Cさん（90歳代）
	異常サイン	夕方のパトロール中に庭で転倒している対象者を発見する。
	対応状況	救急車を手配する。別居の親族に電話連絡する。
	対応結果	救急車が到着し、対象者は一命を取り留めた。 救急車や対象者の親族を待つ間に防災訓練の勉強が役立った。

《裏面もご覧ください》





事例4	見守り対象者	Dさん（90歳代）
	異常サイン	対象者が自宅と違う方向に自転車を押しながら歩いている姿を発見する。
	対応状況	声掛けを行い、本人確認する。親族と連絡が取れたことから、ご家族に対象者を引き渡した。
	対応結果	対象者の認知症が進行している可能性を親族へ伝え、あんしんケアセンターを案内する。そのことがきっかけで、親族があんしんケアセンターへ相談するに至る。その後徘徊により警察に保護されることがあったが、親族や本人から相談があるまでは、介入せず、干渉しすぎないことを意識して、見守り活動を行っている。

事例5	見守り対象者	Eさん（80歳代）
	異常サイン	特に大きな異常は見られなかったが、見守り対象者の生活状況確認の一環として実施。
	対応状況	声掛け及び状況確認を行う。
	対応結果	対象者が問題なく生活されていることを確認した。 今後も継続的な見守り活動を行う。

皆さまの日々の活動や気づきが、高齢者等の孤立・孤独対策となり、安心・安全な地域づくりにつながります。

住み慣れた地域で、地域の実状に応じ活動いただける住民の皆様が、日常生活の中でお互いにさりげない目配り・気配りや声かけを通して、『向こう三軒両隣』の関係づくりを続けていきましょう。

<参考>

－見守り活動実施地区部会及び町内自治会数－

区名	実施地区部会数	実施町内自治会数
中央区	13地区部会	158町内自治会
花見川区	8 //	25 //
稲毛区	8 //	28 //
若葉区	6 //	35 //
緑区	4 //	11 //
美浜区	5 //	35 //
合計	44地区部会	292町内自治会

〔令和8年5月現在 千葉市社会福祉協議会把握分〕

